

第119回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 令和4年12月6日（火）13時30分～14時25分
2. 場 所 福島大学事務局棟 大会議室（一部 web 参加）
3. 出席者
 - 【学外委員】石山純恵、岩渕明、遠藤雄幸、菅野孝志、加藤知道、中村考昭、羽田貴史
 - 【学内委員】三浦浩喜、塩谷弘康、佐野孝治、内藤雷太、谷雅泰、田中明、新田洋司
 - 〔オブザーバー〕学類長：初澤敏生、垣見隆禎、末吉健治、長橋良隆、生源寺眞一
 - 理 事：鈴木廣明、濱津さとみ
 - 監 事：上井喜彦、橋本潤子

4. 欠席者
 - 【学外委員】松田和士
 - 【学内委員】なし

5. 議 事

【審議事項】

- (1) 役員の業績評価について【資料1】
- (2) 学長選考・監察会議委員の選出について【資料2】
- (3) 副理事の設置について【資料3】
- (4) 学内諸規則の制定について【資料4】

【報告事項】

- (1) 大学院の改革について【資料5】
- (2) その他
 - ①令和4年度第2次補正予算の伝達について

議事に先立ち、経営協議会学外委員の佐藤秀美氏の退任及び加藤知道委員の就任について報告があり、引き続き、加藤委員から挨拶があった。

【確認事項】

第118回経営協議会議事要録を原案のとおり確認した。

【審議事項】

(1) 役員の業績評価について

三浦学長から、資料1に基づき、令和4年3月末に任期満了となった役員の退職手当の支給及び令和4年12月期における役員の期末特別手当の支給に係る役員の業績評価について提案があった。

審議の結果、提案のとおり承認された。

(2) 学長選考・監察会議委員の選出について

岩淵学長選考・監察会議議長から、資料2に基づき、経営協議会学外委員の佐藤秀美氏の退任に伴い、加藤知道委員を学長選考・監察会議委員に選出することについて提案があった。

審議の結果、提案のとおり承認された。

(3) 副理事の設置について

三浦学長から、資料3に基づき、副理事の設置について提案があり、内藤理事・事務局長から詳細について説明があった。提案について意見交換を行い、副理事の設置については、今後設置案に基づいた制度設計を行うことで承認された。

(以下、◇はその議題に関する学外委員会からの質問・意見、◆は大学側の回答を表す。)

◇小規模な福島大学で副理事を設置する理由は何か。

◆今回の大学院改革の反省を踏まえ、これから大学改革を進める中で、司令塔となるポストが必要になると考えている。

◇大学改革は校務なので、副理事の設置とは整合性が合わないのではないか。副理事の職務、任命、任期について具体的に説明いただきたい。

◆副理事は事務職員の兼務を想定しており、事務の立場から学長を支える体制を強化したいと考えている。副理事の具体的な役割については、今後副理事となる者を含めて議論していく予定であるが、今回はそのための最低限の整備として、設置について提案した。

◇副理事という名称については疑問が残るが、教職協同の観点から、プロパーの事務職員の地位を高め、責任をもって仕事していただくポストを設置することには賛成であ

る。

◇立場が人をつくるという考えもある。副理事を設置することで職員の能力向上につながるのではないか。

◇ポストを増やすことで煩雑さが増し、混乱が生じる恐れはないか。

◆指揮命令系統については整理する必要がある、副理事はその整理役を担うと考えている。

◆この2年半で大学院改組を行ってきたが、現状の共通認識や全学の意思決定に多くの時間を費やした。また、設置に係る具体的な作業やその分担も既存の事務体制ではなかなか進まなかった。特に、今回の大学院改革はすべての研究科を巻き込んだ改革のため、多くの混乱が生じた。

このような反省を踏まえ、今後の大学改革では一定の整理を行い、リーダーシップをとれるポストが必要だと判断した。

(4) 学内諸規則の制定について

塩谷理事・副学長から、資料4に基づき、副理事の設置に係る学内諸規則の制定について提案があり、内藤理事・事務局長から、詳細について説明があった。

審議の結果、提案のとおり承認された。

【報告事項】

(1) 大学院の改革について

塩谷理事・副学長から、資料5に基づき、大学院に係る文部科学省への設置関係手続が完了したことの報告があった。引き続き、各研究科代表から、学生募集の状況について報告があった。

◇食農科学研究科が定員の倍以上の学生を受け入れることについて、今後の評価に関わるのではないか。

◆非常に意欲的な志願者が多かったが、あらかじめ設定した基準をもって受け入れる判断をした。入学定員そのものを増やす必要もあるのではないかと考えている。

今後は、食農科学研究科の研究を地域や企業の方々に評価していただき、これから輩出していく修士課程修了生を信頼して受け入れていただける関係を築き、つながりを

つくっていききたい。

◇最終的には全学的な定員を満たさなければ、大学院改組の意味がなくなってしまう。
今後も定員充足に努めていただきたい。

◆定員を満たすだけでなく、今回の改革で減らした定員の上積み分を積み重ねながら定員を増やしていくことも念頭に置いている。食農学類とは全学との共通理解のもとに合格者を出していただいた。

(2) その他

①令和4年度第2次補正予算の伝達について

内藤理事・事務局長から、文部科学省から伝達のあった令和4年度第2次補正予算について報告があった。